

# 平成30年1-3月期中小企業景気動向調査結果

## 業況DIは1.7ポイントの低下

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）が四半期ごとに実施している「中小企業景気動向調査」の平成30年1-3月期の調査結果をまとめましたので、ご報告いたします。

### 1. 調査要領

- ・調査時期：平成30年2月
- ・調査対象：神奈川県内中小企業2,000社
- ・回答数（率）：1,080社（54.0%） \*詳細は下記の通り
- ・調査方法：調査対象への郵送
- ・分析方法：DI（Diffusion Index）\*による分析

※ 業況等について、「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を引いた数値

区分	送付数	回答数	回答率（%）
製造業	550	374	68.0%
建設業	250	134	53.6%
商業・サービス業 (卸売業、小売業、飲食店、サービス業)	1,200	572	47.7%
合計	2,000	1,080	54.0%

### 2. 調査結果

#### (1) 総合

	平成29年			平成30年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
業況DI	▲22.4	▲20.3	▲17.4	▲19.1	▲18.1	▲20.8
売上DI	▲19.7	▲15.6	▲14.0	▲18.2	—	—
採算DI	▲23.0	▲21.2	▲20.3	▲25.4	—	—

総合の業況DIは、前期比1.7ポイント低下の▲19.1となった。

経営状況では、売上DIは前期比4.2ポイント低下の▲18.2、また、採算DIは同5.1ポイント低下の▲25.4となった。

今後の業況DIを見ると、3ヵ月後は現在比1.0ポイント上昇の▲18.1、半年後は同1.7ポイント低下の▲20.8を見込んでいる。

#### (2) 業種別特徴

##### <製造業>

	平成29年			平成30年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
業況DI	▲8.3	▲6.9	5.8	1.9	▲2.7	▲3.3
売上DI	▲6.3	3.2	6.6	▲5.6	—	—
採算DI	▲12.0	▲6.3	▲6.0	▲11.1	—	—

製造業の今期の業況 DI は、前期比 3.9 ポイント低下の 1.9 となった。「例年、年度末までは好調だが、年度始めからしばらくは受注が落ちる傾向。現在いくつかある新規引き合いを、ものにしたいところ。」「中国他アジア向けが好調であるが、12 月位からやや失速気味。それでも前年を 5%程、上回っている。」などという声も聞かれた。

経営状況では、売上 DI は、前期比 12.2 ポイント低下の▲5.6、採算 DI は同 5.1 ポイント低下の▲11.1 となり「見積り依頼はあるが、新規受注に結び付かない。既存の製品も打ち切りが増えて来て、売上減少の一途を辿っていくようで心配。」といった声も聞かれた。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は現在比 4.6 ポイント低下の▲2.7、半年後は同 5.2 ポイント低下の▲3.3 を見込んでおり、「伝統技術よりも価格で選ぶお客様が多く、受注も少なくなり経営難。中国製他海外製が多すぎて、安くしても国内産は高値になってしまう。景気は最悪。」「発注単価が下がり、仕入単価が高くなっている。企業努力で何とか採算を保っているが、先行きは相変わらず不透明。」といった声も聞かれた。

なお、製造業の中分類の業況 DI は以下の通り。

	平成 29 年			平成 30 年		
	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期 見込	7-9 月期 見込
一般機械	▲1.2	3.6	12.5	21.3	14.0	10.5
電気機械	▲16.0	▲16.7	2.4	▲8.1	▲5.8	▲3.6
輸送用機械	▲4.5	▲1.7	▲1.5	▲3.2	▲11.5	▲8.2
その他	▲10.2	▲10.2	7.0	▲2.2	▲7.5	▲9.8

中分類で見ると、一般機械は前期比 8.8 ポイント上昇の 21.3、電気機械は同 10.5 ポイント低下の▲8.1、輸送用機械は同 1.7 ポイント低下の▲3.2 となった。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は一般機械が現在比 7.3 ポイント低下の 14.0、電気機械が同 2.3 ポイント上昇の▲5.8、輸送用機械が同 8.3 ポイント低下の▲11.5、半年後は一般機械が同 10.8 ポイント低下の 10.5、電気機械が同 4.5 ポイント上昇の▲3.6、輸送用機械は同 5.0 ポイント低下の▲8.2 を見込んでいる。

#### <建設業>

	平成 29 年			平成 30 年		
	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期 見込	7-9 月期 見込
業況 DI	▲13.0	0.0	3.8	0.7	▲11.5	▲18.0
売上 DI	▲34.6	▲17.3	▲6.8	▲1.5	—	—
採算 DI	▲27.7	▲15.1	▲7.5	▲7.6	—	—

建設業の今期の業況 DI は、前期比 3.1 ポイント低下の 0.7 となった。

経営状況では、売上 DI は前期比 5.3 ポイント上昇の▲1.5、採算 DI は同 0.1 ポイント低下の▲7.6 となった。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は現在比 12.2 ポイント低下の▲11.5、半年後は同 18.7 ポイント低下の▲18.0 となり、業況は悪化すると見込んでいる。「受注可能案件と人員のバランスが悪く、受注制限をしなくてはならない状況。個々のスキル（若手社員）の底上げ及び提案型営業での受注を強化していく。」「年度末の割には引き合いが少ない、4 月以降も予定は少ない。」「仕入材料が値上がり 15%くらい。これが受注時に算入されていないので厳しい。」といった声も聞かれた。

#### <商業・サービス業>

	平成 29 年			平成 30 年		
	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期 見込	7-9 月期 見込
業況 DI	▲34.0	▲33.8	▲37.9	▲37.5	▲29.7	▲33.1
売上 DI	▲24.8	▲27.3	▲29.4	▲30.6	—	—
採算 DI	▲29.0	▲32.3	▲32.8	▲39.0	—	—

商業・サービス業の業況 DI では、前期比 0.4 ポイント上昇の▲37.5 となった。

経営状況では、売上 DI が前期比 1.2 ポイント低下の▲30.6、採算 DI は同 6.2 ポイント低下の▲39.0 となった。「仕事はあるが人手不足のため、やれる量が限られるので売上はあまり伸びない。人件費の高騰がきつい。働ける高齢者はどんどん働いてほしい。」「若者はネットなどでの購入が広がり、高齢者は買物が容易ではなくなり販売にならず、この先、回復するであろうか希望は持てない。」などの他、「子育てをしている時は利益を追求しましたが、幸い健康で働けることに感謝し、お客様に喜んでもらい、赤字分は私達年寄りのデイサービスの費用と思えば、商売をやっていて良かったと思います。」といった声も聞かれた。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は現在比 7.8 ポイント上昇の▲29.7、半年後は同 4.4 ポイント上昇の▲33.1 を見込んでいる。「得意先は飲食業界ですが少しずつ景気改善の効果が出ている。」「好調の要因としてはブランド力のアップで問い合わせを多々頂いている。不調要因は既存取引先（スーパー）が落ち込んでいる。」といった声が聞かれる一方「人手不足の為、仕事を受けることが出来ない。」「技術者不足を全体でカバーし売上増で黒字。今年から 1 名技術者増、人件費とのバランスが心配材料。零細企業、人材確保の難しさ。」「環境は相変わらず不変ですが、このところ多少受注が多くなりました、が、先行きは不透明です。人材確保が厳しい状況の為、無理せず従業員の安全に気を配り、先を見据えて行く所存です。」といった声も聞かれた。

なお、商業・サービス業の業種別の業況 DI は以下の通り。

	平成 29 年			平成 30 年		
	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期 見込	7-9 月期 見込
卸売業	▲24.2	▲26.5	▲26.0	▲30.7	▲25.8	▲29.9
小売業	▲50.0	▲51.4	▲55.1	▲48.8	▲45.8	▲48.8
飲食店	▲31.3	▲29.7	▲45.7	▲45.1	▲36.2	▲35.3
サービス業	▲17.1	▲13.1	▲14.0	▲18.3	▲1.4	▲3.9

業種別では、卸売業は前期比 4.7 ポイント低下の▲30.7、小売業は同 6.3 ポイント上昇の▲48.8、飲食店は同 0.6 ポイント上昇の▲45.1、サービス業は同 4.3 ポイント低下の▲18.3 となった。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は卸売業が現在比 4.9 ポイント上昇の▲25.8、小売業は同 3.0 ポイント上昇の▲45.8、飲食店は同 8.9 ポイント上昇の▲36.2、サービス業は同 16.9 ポイント上昇の▲1.4 を見込み、半年後では卸売業が同 0.8 ポイント上昇の▲29.9、小売業は今期と変わらない▲48.8、飲食店は同 9.8 ポイント上昇の▲35.3、サービス業は同 14.4 ポイント上昇の▲3.9 を見込んでいる。

### (3) 規模別特徴

		平成 29 年			平成 30 年		
		4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期 見込	7-9 月期 見込
中規模	業況 DI	▲13.2	▲13.8	▲10.1	▲11.3	▲10.9	▲13.7
	売上 DI	▲11.6	▲8.7	▲8.1	▲9.0	—	—
	採算 DI	▲15.9	▲17.9	▲16.7	▲21.8	—	—
小規模	業況 DI	▲33.4	▲28.4	▲26.1	▲28.1	▲26.5	▲28.9
	売上 DI	▲29.4	▲24.2	▲21.1	▲28.7	—	—
	採算 DI	▲31.3	▲25.3	▲24.6	▲29.6	—	—

規模別の業況 DI は、中規模企業は前期比 1.2 ポイント低下の▲11.3、小規模企業は同 2.0 ポイント低下の▲28.1 となった。

経営状況では、中規模企業は売上 DI が前期比 0.9 ポイント低下の▲9.0、採算 DI が同 5.1 ポイント低下の▲21.8、小規模企業は売上 DI が同 7.6 ポイント低下の▲28.7、採算 DI が同 5.0 ポイント低下の▲29.6 となった。

今後の業況 DI については、中規模企業は 3 ヶ月後が現在比 0.4 ポイント上昇の▲10.9、半年後が同 2.4 ポイント低下の▲13.7、小規模企業は 3 ヶ月後が同 1.6 ポイント上昇の▲26.5、半年後は同 0.8 ポイント低下の▲28.9 を見込んでいる。

## (4) 地区別特徴（業況 DI）

	平成 29 年			平成 30 年		
	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期 見込	7-9 月期 見込
横浜	▲17.6	▲16.1	▲13.3	▲13.4	▲15.4	▲21.0
川崎	▲27.2	▲27.9	▲14.7	▲12.7	▲14.3	▲13.8
横須賀	▲25.7	▲18.8	▲23.8	▲21.3	▲20.8	▲22.0
平塚	▲21.6	▲24.2	▲8.4	▲14.7	▲20.0	▲19.2
藤沢	▲21.0	▲22.9	▲34.3	▲35.8	▲21.2	▲18.4
相模原	▲18.4	▲12.7	▲20.6	▲15.6	▲19.8	▲20.8
厚木	▲15.0	▲10.9	▲3.6	▲12.4	▲13.5	▲20.4
足柄上・西湘	▲39.8	▲35.1	▲28.3	▲37.3	▲25.5	▲32.4

今期の地区別の業況 DI は、川崎地区（前期比 2.0 ポイント上昇の▲12.7）、横須賀地区（同 2.5 ポイント上昇の▲21.3）、相模原地区（同 5.0 ポイント上昇の▲15.6）の 3 地区で上昇となり、横浜地区（前期比 0.1 ポイント低下の▲13.4）、平塚地区（同 6.3 ポイント低下の▲14.7）、藤沢地区（同 1.5 ポイント低下の▲35.8）、厚木地区（同 8.8 ポイント低下▲12.4）、足柄上・西湘地区（同 9.0 ポイント低下の▲37.3）の 5 地区で低下となった。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は横須賀地区（現在比 0.5 ポイント上昇の▲20.8）、藤沢地区（同 14.6 ポイント上昇の▲21.2）、足柄上・西湘地区（同 11.8 ポイント上昇の▲25.5）の 3 地区で上昇となり、横浜地区（現在比 2.0 ポイント低下の▲15.4）、川崎地区（同 1.6 ポイント低下の▲14.3）、平塚地区（同 5.3 ポイント低下の▲20.0）、相模原地区（同 4.2 ポイント低下の▲19.8）、厚木地区（同 1.1 ポイント低下の▲13.5）の 5 地区で低下となった。

半年後は、藤沢地区（現在比 17.4 ポイント上昇の▲18.4）、足柄上・西湘地区（同 4.9 ポイント上昇の▲32.4）の 2 地区で上昇となり、横浜地区（現在比 7.6 ポイント低下の▲21.0）、川崎地区（同 1.1 ポイント低下の▲13.8）、横須賀地区（同 0.7 ポイント低下の▲22.0）、平塚地区（同 4.5 ポイント低下の▲19.2）、相模原地区（同 5.2 ポイント低下の▲20.8）、厚木地区（同 8.0 ポイント低下の▲20.4）の 6 地区は低下すると見込んでいる。

▼本件に関するお問い合わせ先  
 （公財）神奈川県産業振興センター（KIP）  
 (Kanagawa Industrial Promotion Center)  
 事業部経営総合相談課 小野田  
 TEL:045-633-5201 FAX:045-633-5194  
 URL <http://www.kipc.or.jp/> E-mail:soudan@kipc.or.jp

景気動向調査 (平成30年1月～3月期)

業種別DI表

		製造業	建設業	商業・サービス業				小計	総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業		
回収数		374	134	102	255	72	143	572	1080
業況判断	現在の業況	1.9	0.7	-30.7	-48.8	-45.1	-18.3	-37.5	-19.1
	3ヶ月後の業況	-2.7	-11.5	-25.8	-45.8	-36.2	-1.4	-29.7	-18.1
	半年後の業況	-3.3	-18.0	-29.9	-48.8	-35.3	-3.9	-33.1	-20.8
経営状況	売上	-5.6	-1.5	-20.6	-44.5	-30.6	-11.0	-30.6	-18.2
	採算	-11.1	-7.6	-29.7	-45.5	-38.6	-33.8	-39.0	-25.4
	引き合い／客数	5.7	3.0	-2.9	-49.2	-36.1	-22.4	-32.5	-15.0
	単価	-9.7	-6.8	-17.0	-34.5	-15.5	-15.0	-24.2	-17.0
	仕入価格	-46.5	-37.6	-46.1	-47.2	-77.8	-19.3	-44.0	-44.0
	資金繰り	-10.0	-3.0	-21.6	-40.4	-36.1	-23.8	-32.3	-21.0
	残業	-0.5	-2.3	-12.7	-10.3	-14.3	-25.9	-15.3	-8.5
	設備稼働	0.0	-0.8	-	-	-	-	-	-0.2
前期経営実績	売上水準	10.2	-1.5	-9.8	-40.0	-15.3	-23.2	-27.3	-11.1
	利益水準	23.2	11.2	7.9	-27.7	-9.7	-11.3	-15.0	1.5
	在庫	2.5	0.0	17.3	7.5	2.8	-24.8	0.9	1.4
	投資	3.2	-7.0	-5.2	-17.7	-16.2	-19.9	-15.9	-8.1
	雇用状況	-31.5	-50.4	-21.6	-20.4	-34.3	-26.1	-23.8	-29.9

(注)DI(Diffusion Index): 各項目ごとのプラス要素の比率からマイナス要素の比率を差し引いた数値

参考<前回調査> 景気動向調査 (平成29年10月～12月期)

		製造業	建設業	商業・サービス業				小計	総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業		
回収数		365	133	100	239	71	143	553	1051
業況判断	現在の業況	5.8	3.8	-26.0	-55.1	-45.7	-14.0	-37.9	-17.4
	3ヶ月後の業況	-3.6	1.5	-29.6	-46.4	-38.0	-21.0	-35.7	-19.9
	半年後の業況	-8.0	-9.4	-24.0	-47.8	-31.9	-18.8	-34.0	-21.8
経営状況	売上	6.6	-6.8	-8.0	-43.9	-29.6	-20.3	-29.4	-14.0
	採算	-6.0	-7.5	-18.0	-42.0	-43.7	-22.5	-32.8	-20.3
	引き合い／客数	7.7	-3.8	-11.1	-43.0	-28.6	-14.3	-27.9	-12.4
	単価	-6.8	-6.8	-16.2	-34.9	-14.3	-20.7	-25.1	-16.4
	仕入価格	-46.1	-37.6	-47.0	-40.1	-70.4	-31.8	-43.4	-43.6
	資金繰り	-11.0	-6.1	-15.0	-41.9	-38.0	-23.2	-31.6	-21.2
	残業	4.1	-6.0	-10.1	-10.2	-11.6	-18.3	-12.5	-5.8
	設備稼働	5.8	-6.3	-	-	-	-	-	2.7
前期経営実績	売上水準	-0.5	-0.8	-1.0	-35.3	-25.4	-2.8	-19.4	-10.5
	利益水準	20.5	15.8	18.4	11.6	1.4	-6.3	7.2	13.1
	在庫	5.6	-1.7	-5.1	-16.0	-10.0	-10.3	-11.8	-4.4
	投資	-1.6	-10.2	-20.4	-12.7	-32.4	-39.4	-23.6	-14.1
	雇用状況	-28.2	-48.5	-14.0	-48.3	-39.4	-17.5	-33.0	-33.3

### 規模別DI表

		製造業		建設業		商業・サービス業		総合	
		中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業
回収数		201	173	64	70	312	260	577	503
業況判断	現在の業況	5.0	-1.7	1.6	0.0	-24.4	-53.3	-11.3	-28.1
	3ヶ月後の業況	1.5	-7.7	0.0	-22.4	-21.2	-40.2	-10.9	-26.5
	半年後の業況	0.0	-7.1	-9.7	-25.8	-23.6	-44.5	-13.7	-28.9
経営状況	売上	1.5	-14.0	1.6	-4.3	-18.2	-45.5	-9.0	-28.7
	採算	-4.5	-18.8	-3.1	-11.8	-36.9	-41.4	-21.8	-29.6
	引き合い／客数	11.5	-1.2	9.5	-2.9	-20.3	-47.1	-5.9	-25.4
	単価	-9.5	-10.0	0.0	-13.0	-16.1	-33.6	-12.0	-22.7
	仕入価格	-47.0	-45.8	-34.4	-40.6	-41.7	-46.7	-42.7	-45.5
	資金繰り	-3.5	-17.8	4.7	-10.1	-25.0	-41.2	-14.2	-28.9
	残業	2.5	-4.2	4.7	-8.7	-15.0	-15.6	-6.7	-10.7
	設備稼働	4.5	-5.4	3.1	-4.7	-	-	4.2	-5.2
前期経営実績	売上水準	12.0	8.1	0.0	-2.9	-18.3	-38.2	-5.7	-17.4
	利益水準	31.5	13.5	18.8	4.3	-7.7	-23.9	8.9	-7.1
	在庫	3.6	1.2	0.0	0.0	1.3	0.4	2.0	0.6
	投資	4.5	1.8	3.3	-16.2	-9.5	-23.7	-3.2	-13.8
	雇用状況	-36.4	-25.9	-48.4	-52.2	-27.9	-18.7	-33.2	-26.0

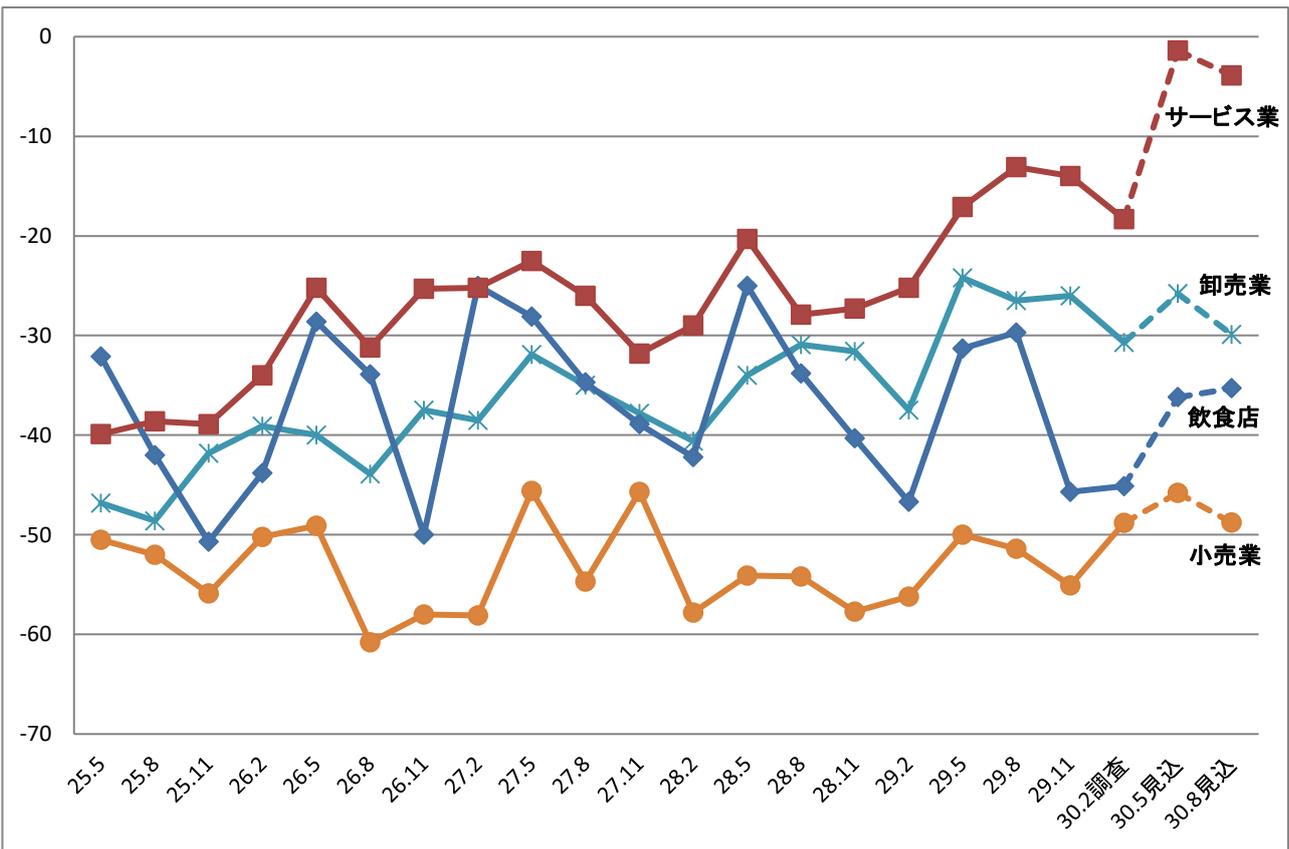
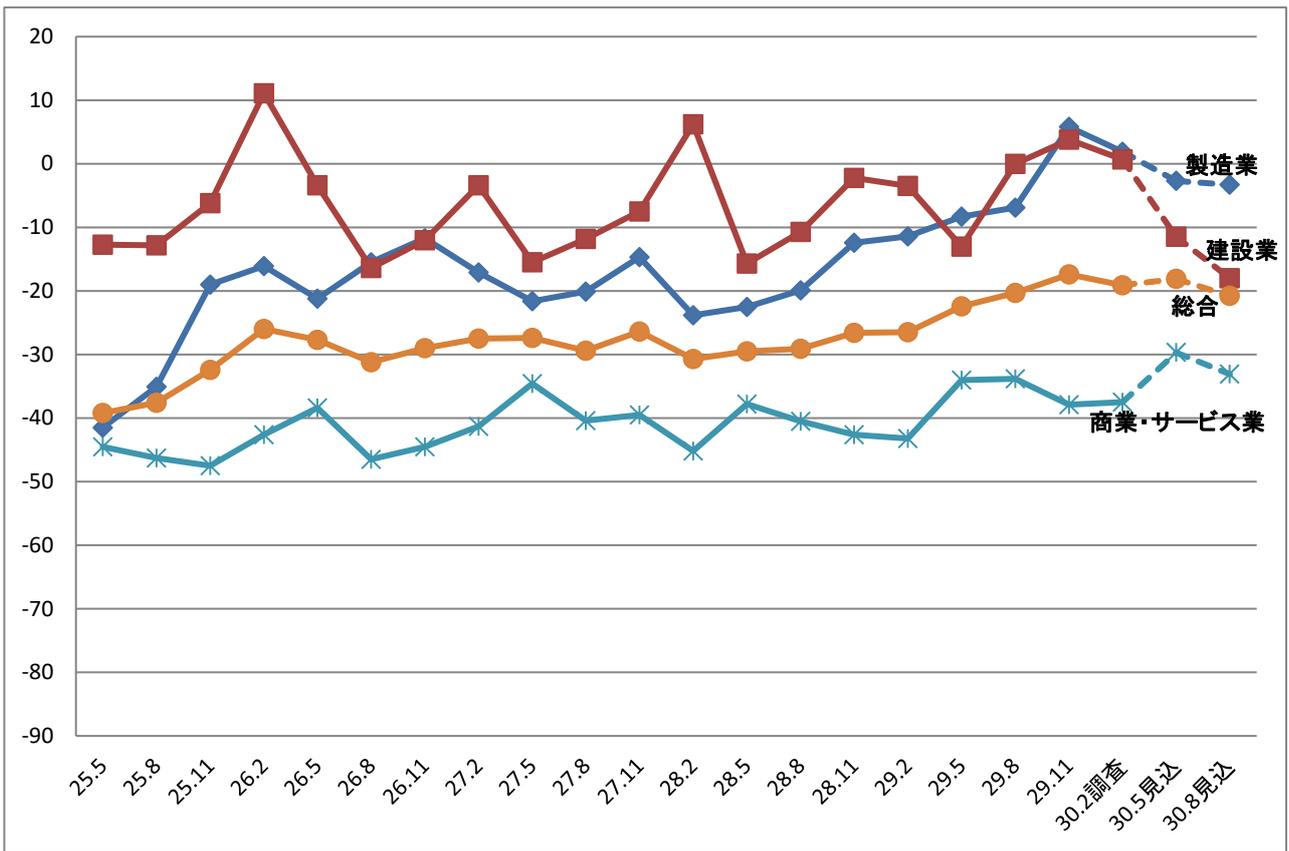
### 地区別DI表

		横浜	川崎	横須賀	平塚	藤沢	相模原	厚木	足柄上・西湘	総合
回収数		284	142	124	103	107	96	114	110	1080
業況判断	現在の業況	-13.4	-12.7	-21.3	-14.7	-35.8	-15.6	-12.4	-37.3	-19.1
	3ヶ月後の業況	-15.4	-14.3	-20.8	-20.0	-21.2	-19.8	-13.5	-25.5	-18.1
	半年後の業況	-21.0	-13.8	-22.0	-19.2	-18.4	-20.8	-20.4	-32.4	-20.8
経営状況	売上	-19.1	-5.0	-22.0	-15.5	-29.0	-14.9	-14.3	-27.6	-18.2
	採算	-26.3	-20.0	-27.9	-19.4	-33.0	-26.0	-26.8	-23.4	-25.4
	引き合い／客数	-15.6	-0.7	-14.6	-9.7	-28.6	-27.1	-2.7	-25.5	-15.0
	単価	-12.9	-6.5	-22.6	-13.6	-25.0	-14.7	-22.8	-25.5	-17.0
	仕入価格	-42.1	-40.0	-44.4	-49.0	-42.9	-51.6	-41.6	-46.3	-44.0
	資金繰り	-17.0	-14.2	-25.0	-21.4	-24.5	-24.0	-21.1	-29.4	-21.0
	残業	-3.6	-1.4	-25.4	3.0	-16.3	-14.6	-9.0	-8.5	-8.5
	設備稼働	7.0	4.2	-13.0	5.9	-14.6	0.0	-1.6	-4.8	-0.2
前期経営実績	売上水準	-12.1	-5.6	-10.5	-3.9	-29.9	-3.1	3.5	-27.5	-11.1
	利益水準	3.9	4.2	0.8	11.7	-16.0	5.2	11.4	-14.0	1.5
	在庫	4.1	-2.1	4.2	5.0	-2.9	-2.1	-2.8	3.8	1.4
	投資	-4.4	-4.3	-7.4	-6.9	-20.4	-9.4	-7.1	-12.0	-8.1
	雇用状況	-26.9	-31.4	-32.2	-30.7	-24.0	-30.5	-36.0	-30.6	-29.9

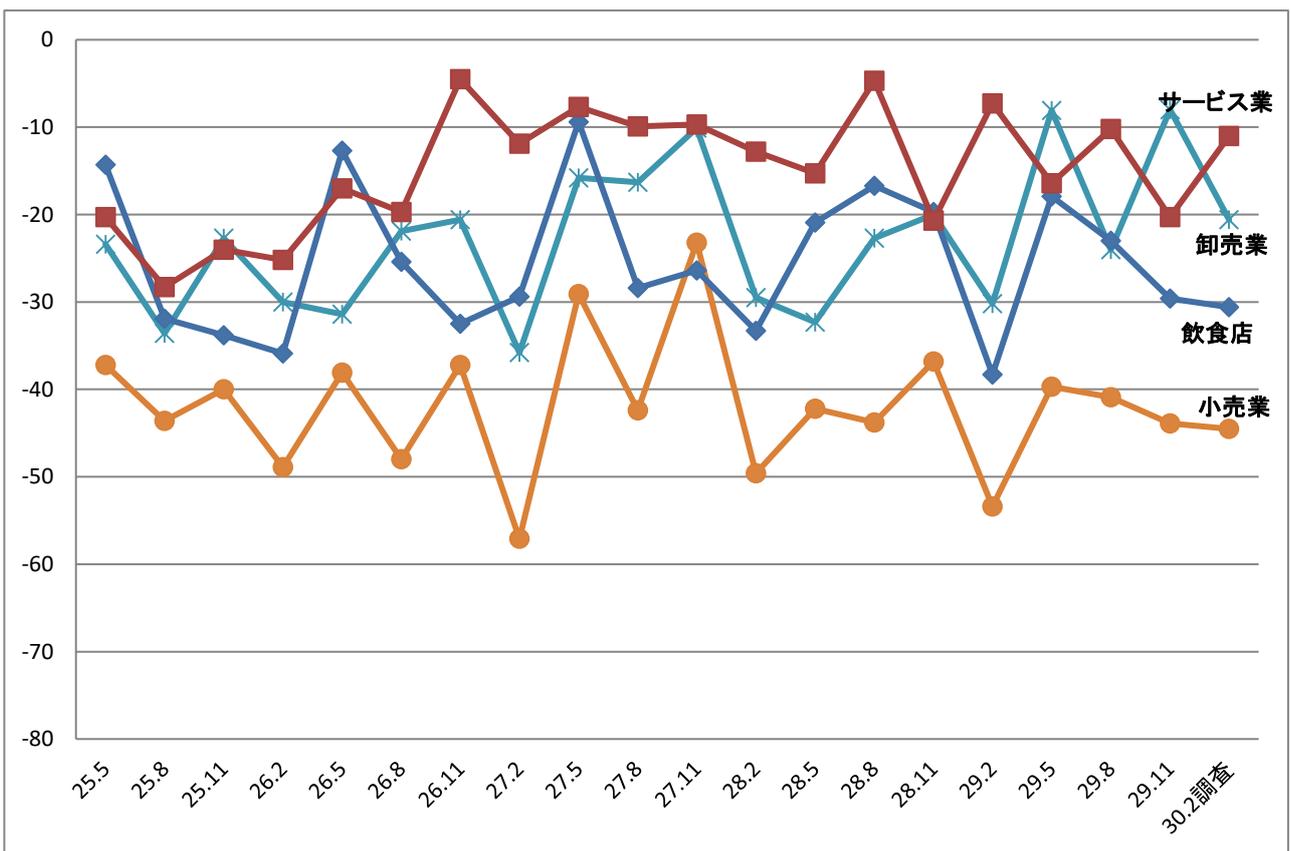
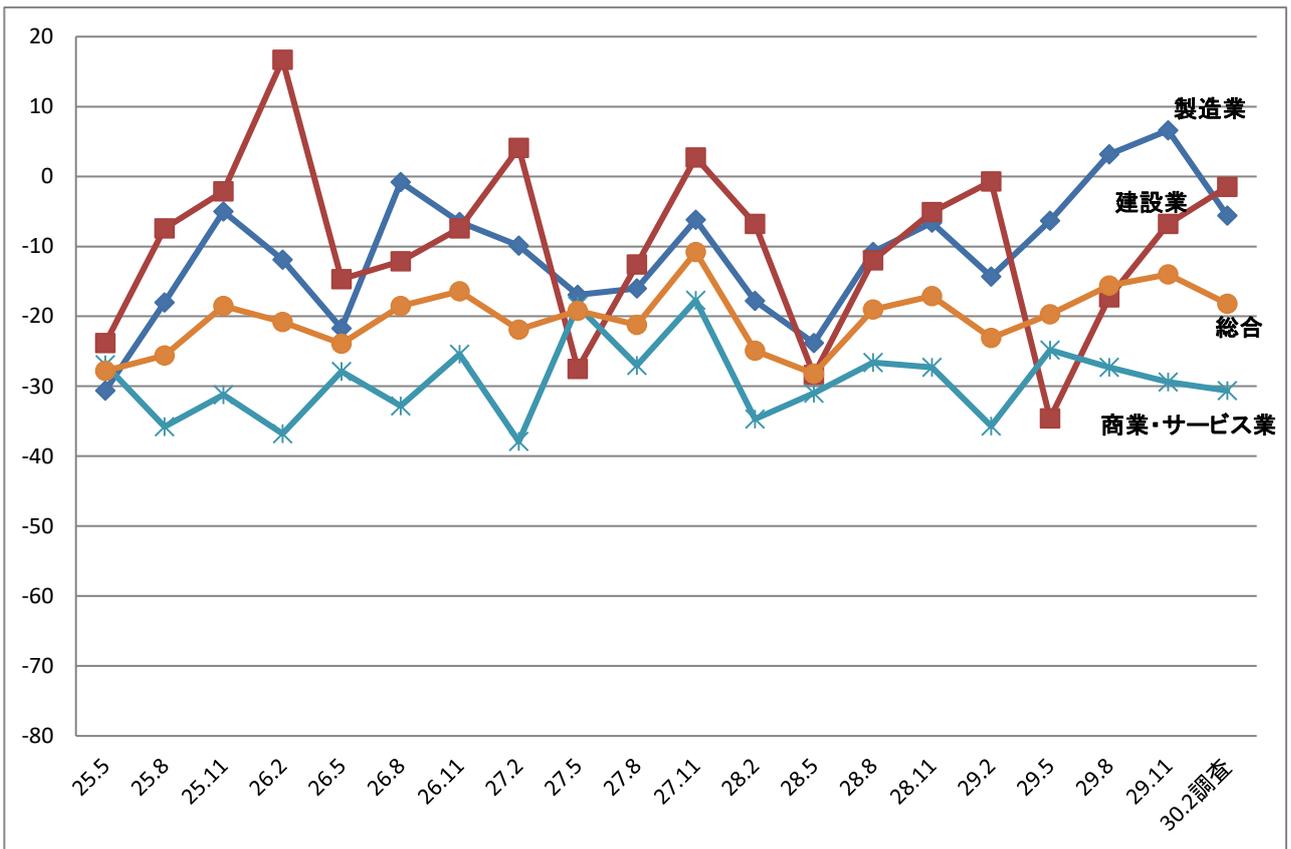
### 製造業中分類別DI表

		一般機械	電気機械	輸送用機械	その他	総合
回収数		90	86	62	136	374
業況判断	現在の業況	21.3	-8.1	-3.2	-2.2	1.9
	3ヶ月後の業況	14.0	-5.8	-11.5	-7.5	-2.7
	半年後の業況	10.5	-3.6	-8.2	-9.8	-3.3
経営状況	売上	8.9	-9.3	-8.1	-11.9	-5.6
	採算	1.1	-5.9	-26.7	-15.4	-11.1
	引き合い／客数	20.7	10.5	-15.0	2.2	5.7
	単価	3.4	-10.5	-13.3	-16.2	-9.7
	仕入価格	-47.7	-39.5	-41.7	-52.2	-46.5
	資金繰り	-3.4	-9.3	-18.3	-11.1	-10.0
	残業	16.9	-1.2	5.1	-14.2	-0.5
	設備稼働	10.2	-1.2	1.6	-6.7	0.0
前期経営実績	売上水準	19.3	5.8	-1.6	12.5	10.2
	利益水準	21.3	23.3	16.7	27.2	23.2
	在庫	1.2	3.5	0.0	3.7	2.5
	投資	11.4	-1.2	0.0	2.2	3.2
	雇用状況	-38.6	-27.9	-30.0	-29.9	-31.5

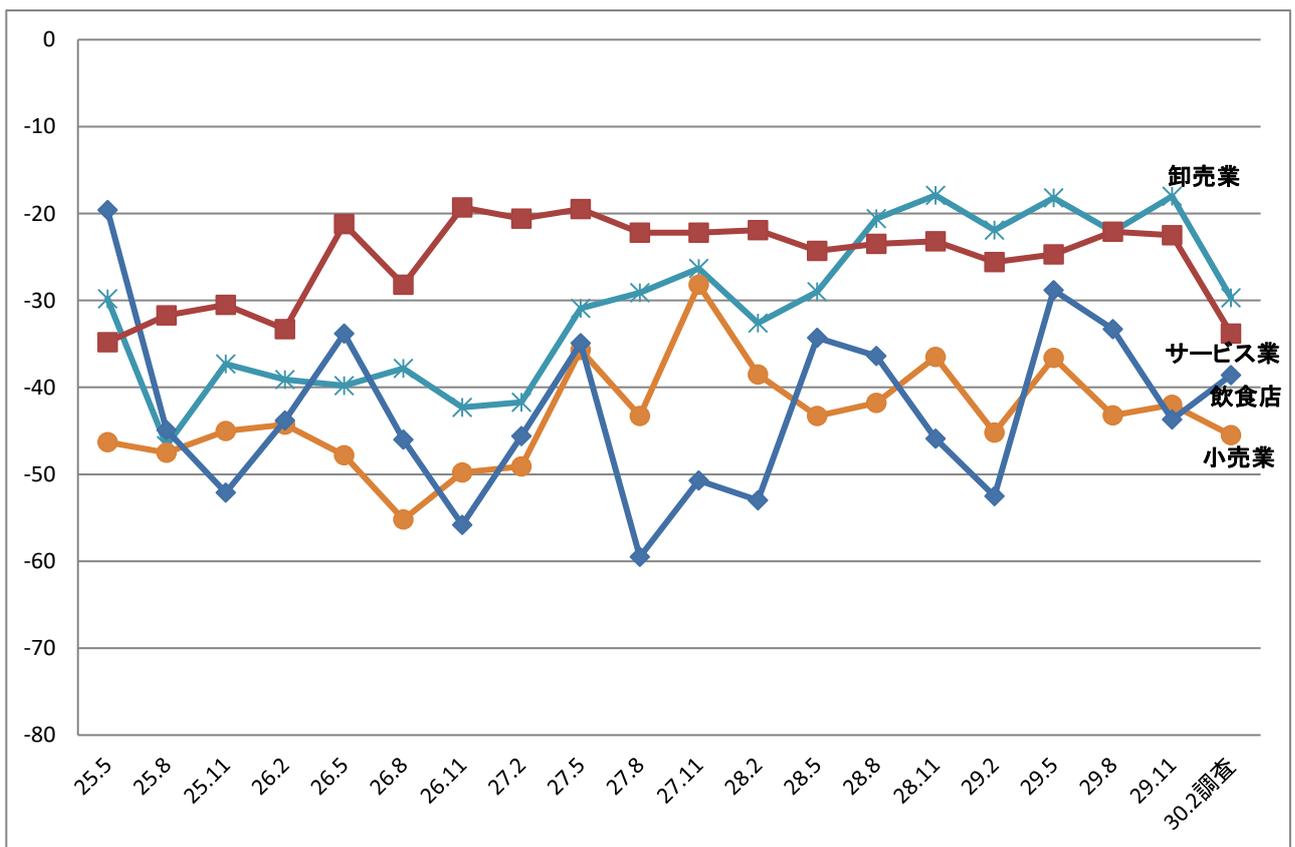
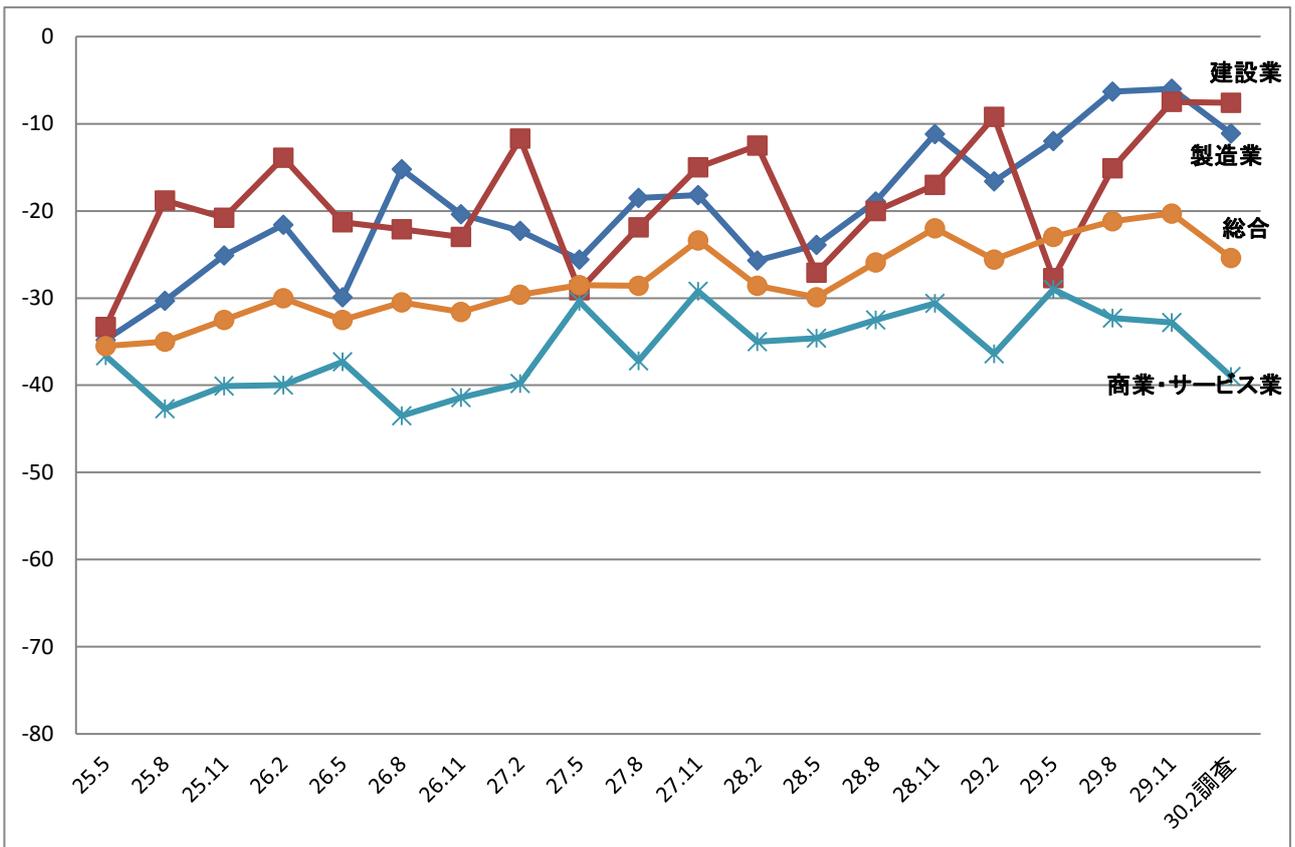
## 業況DIの推移



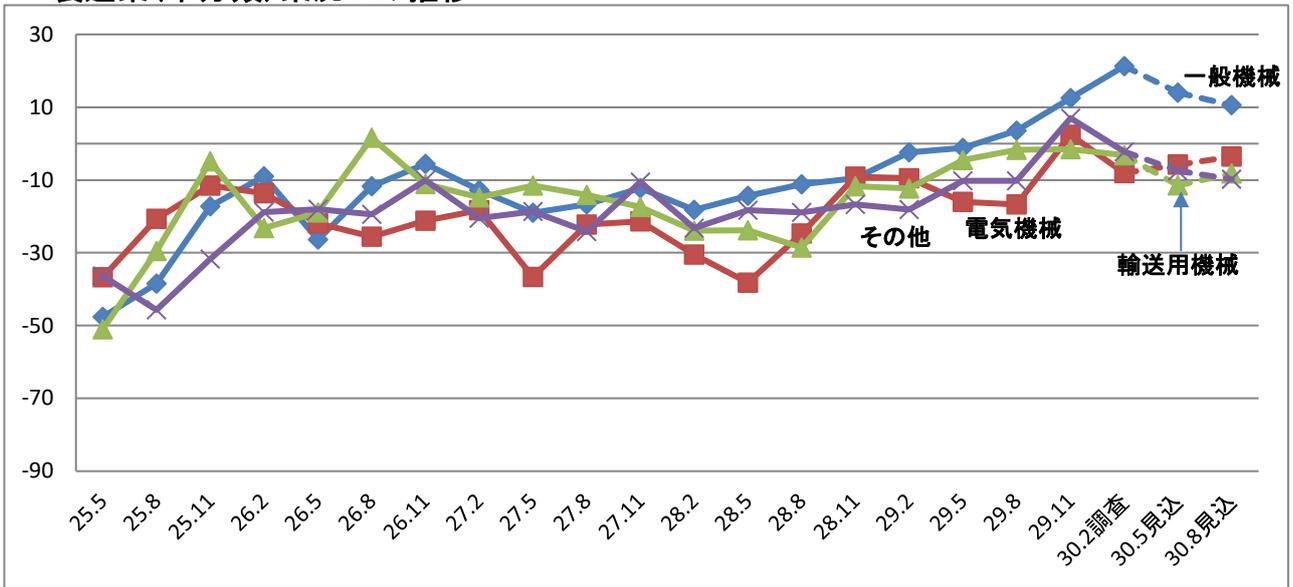
## 売上DIの推移



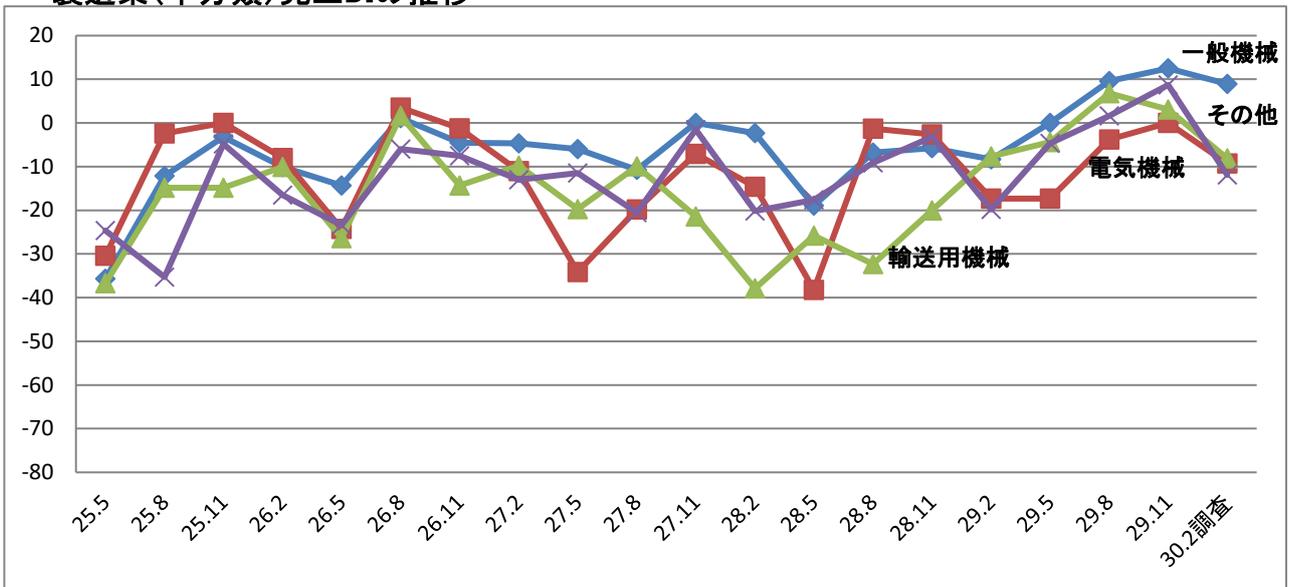
## 採算DIの推移



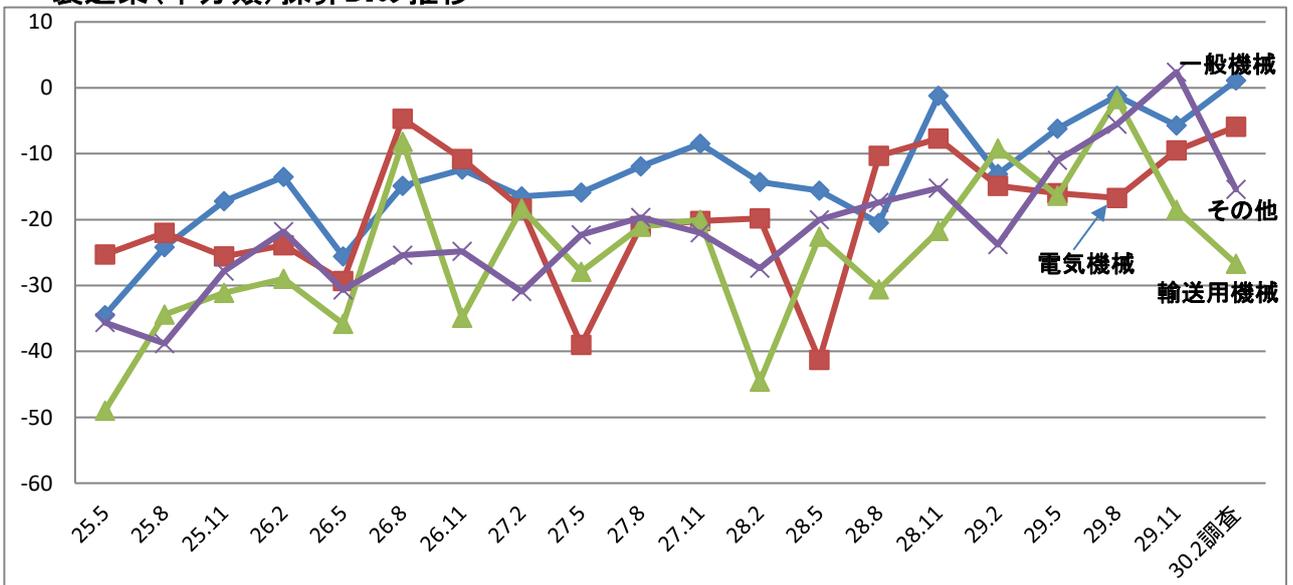
製造業(中分類)業況DIの推移



製造業(中分類)売上DIの推移



製造業(中分類)採算DIの推移



## 調査回答企業からのコメント（一部）

### <製造業>

例年、年度末までは好調だが、年度始めからしばらくは受注が落ちる傾向。現在いくつかある新規引き合いを、ものにしたいところ。
好況の波が中小企業にまで押し寄せてくるのを期待します。
中国他アジア向けが好調であるが、12月位からやや失速気味。それでも前年を5%程、上回っている。
運賃・焼入処理等の価格がかなり上がっているため、採算が悪くなっている。大手の品質管理も厳しくなっており、不良対策に経費が増えている。
見積り依頼はあるが、新規受注に結び付かない。既存の製品も打ち切りが増えて来て、売上減少の一途を辿っていくようで心配。
半年先の案件の引合や、大型案件の引合が多くなっている。去年よりは明るいのではないかと。
求人が難しくなって困っている。欲しい人が集まらない。
業界としては安定期から好況に変っているが、仕事を消化するには課題も多く、対応力を問われている。
業況は上向きであるが、人員増加が思うようにいかない。募集しても反応が無い。
この半年間に行ってきた各種改革が順調に進んでおり、利益率の改善に繋がっています。引き合いも増加しつつあります。ただ、人手不足は続いており、今後は人材確保が重要とされます。
昨年末までの受注が非常に好調だったので3月までフル生産だが、年が明けてからの受注状況が鈍く4月以降不安である。
納期の関係から残業が増えても売上が増えず、加工高も増加しない。今後も業務の無駄をなくすように努めていく。
引き合い状況に波はあるが、業界は繁忙期にあり受注は増加傾向にある。この状況がいつまで続くのかは不明。
引き合いが多く仕事量には恵まれています。ただ、人が集まらない為、将来に向けての課題となっています。
顧客の海外取引好調の余波が、弊社好調の要因。多少のリスクはあるが攻めは必要。1年後は不透明。
仕事内容が鉄が多く二次加工に時間と金がかかっている。単価は高いが出る物も多い。内容の見直しが必要か？
売上、利益とも徐々に上向きになってきているが、人の確保が依然として思うようにいかない。
今冬の寒さが厳しく影響している。雪の影響で箱根方面のバスのキャンセル有り。
伝統技術よりも価格で選ぶお客様が多く、受注も少なくなり経営難。中国製他海外製が多すぎて、安くしても国内産は高値になってしまう。景気は最悪。
発注単価が下がり、仕入単価が高くなっている。企業努力で何とか採算を保っているが、先行きは相変わらず不透明。

### <建設業>

受注可能案件と人員のバランスが悪く、受注制限をしなくてはならない状況。個々のスキル(若手社員)の底上げ及び提案型営業での受注を強化していく。
年度末の割には引き合いが少ない、4月以降も予定は少ない。
引き合いは増えているが受注単価が厳しい。社員及び協力業者に人材不足。
民間の新築工事が3件同時進行で、人手が不足したが、完成して一段落している。仕事は切れ目なくある。
仕入材料が値上がり15%くらい。これが受注時に算入されていないので厳しい。
東京オリンピックまでは良好だと思います。
年度末という事もあり、受注も増えています。客先の話では4月以降も増加傾向ということです。
個建住宅の需要が減少(少子化等の影響か)。
とにかく人材不足。昨今の売り手市場のせいで建設業を希望する手が無く、求人を出しても応募が来ない。ようやく育てたと思ったら離職。そのせいで外注費がかさんでいるのが現状。引合はあるが回らない。この景気良好は大企業のみだと思います。その陰で中小、零細が苦しんでいる。
仕事が多くなってきて利益率が良くない為、経営難が続く。若者の職人離れが目立って多い。各社会保険等が会社の負担になる。

### <小売業>

商店街に来店いただいていた地域のお客様が高齢化による減少。新しいお客様の獲得は難しい。ネット販売やショッピングモールに行っている。
果物は全体的に不作の為、作付割れしているが、野菜が高値の為、商売がしやすく売上が伸びている状況。また、昨年から続けている商品の入替と、仕入れの仕方の変更が寄与し始めている。
若者はネットなどでの購入が広がり、高齢者は買物が容易ではなくなり販売にならず、この先、回復するであろうか希望は持てない。
2020年オリンピック、パラリンピックに向けてインバウンドに対応できるよう努力しています。一昨年から免税店に、2月からウィーチャットペイの導入をしています。
アルバイトを募集しても集まらないです。今月1月から社員9人は週休2日にして労働時間を少なくしています。店は週1回の休みで営業時間を1時間少なくしましたが、今のところ売上は増えています。
商店街の経営者側も客側も高齢化して、若者を呼び戻したい。

## 調査回答企業からのコメント（一部）

一昨年新店舗を開店、業績は上がっている。しかし3年5年先の労働力を考えると諸問題が出てくる。人手不足と労働の質の低下が心配。
営業努力の結果、物件の確保が出来て売上増になった。利益率は輸送コスト仕入商店等の値上げがあり、顧客への転嫁はすぐには難しい。
業界を通して採算が悪い。設備資材への資金投入が難しい。元売り再編で販売システムの構築が変わり、柔軟性が全くない。（高コスト高サービス化により資金繰りが悪化）。
景気が良くなっている実感は全くありません。商店街は相変わらずさびれていくばかり。若い方がネット購入や大型店での買い物を好む為、小売店は太刀打ちできない。
平成29年12月は全般に売上が上昇で大変良かったと思います。しかし1月に入っては売上が悪い為、これから先が心配です。
特に営業活動をしている訳ではないので、新規取引はweb受注に関わるものだけです。個人消費は少しずつ上向いている感触です。
BtoC部門は昨年微増、BtoBは相変わらず良くない。昨年売上が著しく悪かったのが前年比は良いものの、順調な経営状況からは程遠い。BtoBが良くないのは人材確保出来ないことが根本原因と考えている。
人手、人材不足で求人が続いている。定年退職した人を再雇用して、続けている状況です。
好調の要因としてはブランド力のアップで問い合わせを多々頂いている。不調要因は既存取引先（スーパー）が落ち込んでいる。

### <サービス業>

人手不足の為、仕事を受けることが出来ない。
技術者不足を全体でカバーし売上増で黒字。今年から1名技術者増、人件費とのバランスが心配材料。零細企業、人材確保の難しさ。
現状維持できること事態が幸です。もっと地元の方にご来店いただけるよう努めたいと思います。
仕事はあるが人手不足のため、やれる量が限られるので売上はあまり伸びない。人件費の高騰がきつい。働ける高齢者はほとんど働いてほしい。
人手不足による影響が大きい。ハローワークに募集を出しているが応募がほとんどない状況。人件費、燃料費の上昇が利益を圧迫している。
消費者の生活を守る気持ちが強い。自宅で洗える品を着ている。大手安売り業者の進出。若者が少ない。
会社全体をみて安定していると思う（変動が無い）。4月に入った社員が戦力になりつつあるので残業は減っている（予定通り）。
例年は年度の終わりに向け、売上高が増加傾向にありますが、今年度は労働契約法の無期転換対応により、直近の業績見通しが非常に難しいのが現状です。
ずっと人手不足だが、外注等を依頼してこなしています。今後の見通しはオリンピックを控えているので悪くないと思う。
車の板金塗装が減っている。自動車保険を使うと保険料が上がってしまうため直さない人が多い。

### <飲食店>

子育てをしている時は利益を追求しましたが、幸い健康で働けることに感謝し、お客様に喜んでもらい、赤字分は私達年寄りのデイサービスの費用と思えば、商売をやっていて良かったと思います。
お正月、新年会のお客様が増えている。室内を全席椅子席にしたので、年配のかたには好評でした。3月以降も何とかリピーターを増やしたい。
適正な価格とサービスが向上した為、客数が増加したと思います。
高齢化による人事交代が採用難の影響で上手くいきません。活性化に心配。
売上は昨年対比で少しずつ増えているが、原材料の肉、野菜の高騰により、利益が少ない。又、アルバイトの不足により困っております。3月から飲み物の値上げによりますます利益確保が難しくなると思う。
個人店舗は大型店が多くなり今後の見通しも立たない。開店40年で閉店も考えている。
人員不足による正社員の負荷が増大。経費増、売上減の上に単価の高い人件費が負担。
すし屋（個人店）は本当に大変な状況にきています。どうなっていくのでしょうか。でも何かしなくてはと思い、10年ぶりにHPのリニューアルをして12月にはスマホ対応に。今は皆様見ているのですね。この事は一つの好機だと思っています。

### <卸売業>

製鉄メーカーの価格が昨年から上昇しており、来月は更にアップの見込み。販売価格は上げられず、日産向けの数量が例の問題の為に少なくなっている為にダブルパンチ！！。
得意先は飲食業界ですが少しずつ景気改善の効果が出ている。
通販への卸売から、地元中心の産品商品に。売上は減少方向だが、製造にも力を入れて自社商品の充実に移行中。
環境は相変わらず不変ですが、このところ多少受注が多くなりました。が、先行きは不透明です。人材確保が厳しい状況の為、無理せず従業員の安全に気を配り、先を見据えて行く所存です。
周りの大手スーパーの価格が安く市場の内販売しているが、お客が高齢化が進み、うち自身も後継者もなく、やめる方向にしている。消費税が上がったら本当に困る。
西日本方面の建築関連にて売上好調。輸出も現時点では良いが為替に不安有り。
送料がどんどん高くなっていくので利益が上がらない。